**2024年11月更新**

**栄光山小屋（栄光ヒュッテ）　同窓生利用の手引き**

**栄光学園**

丹沢・札掛にある栄光山小屋。同窓生の皆さんは、学園の利用日と重ならない限り、ご家族・友人とご利用頂けます。手引に従い「ヒュッテ・ライフ」をお楽しみ下さい。

**[申込方法など]**

１．学園の担当者にメールまたは電話し、希望日を調整した上、申し込んで下さい。

（2024年4月～担当者は、山田事務統括＝yamada.uj5@eiko.ed.jp）

２．山小屋の鍵は、国民宿舎丹沢ホームで受け取り、利用後、返却して下さい。

３．宿泊料は１人１泊1200円（学生は600円、未就学児は無料）。下山後、振り込んで下さい。

**[利用上の注意事項]**

1. 炊事場、トイレの鍵は、入って左の柱に掛かっています。
2. 灯油ランプは、使用後の給油と手入れをお願いします。LEDランプも使えます。
3. 炊事用のLPガス、炊事用具、食器類が利用できます。
4. 上流から引き込んでいる水道水は、飲用の場合、煮沸することをお勧めします。
5. 布団は使う前に天日干しするか、シュラフ持参をお勧めします。
6. トイレットペーパーは備え付けのものを使用して下さい。バイオトイレなので、

個室を使用した際には、備え付けの棒で攪拌し、おがくずを上からかぶせて下さい。

1. 小屋下の広場では、テント張り、焚き火台を使っての焚き火はOKです。

直火での焚き火や花火は厳禁、キャンプファイヤーはご遠慮下さい。

８．ヤマビルに注意し、ペット同伴は避けた方が無難です。

９．車でお越しの場合、札掛橋左折後に左手にある公共駐車場をご利用下さい。

**[薪ストーブの使用ついて]**

１．薪は購入（秦野森林組合がお勧め）するか、周辺の枯木などを自己調達して下さい。

1. まず、ストーブ脇の「薪ストーブ虎の巻」をよく読んで利用方法を確認して下さい。前回使用した際の灰は２センチ程度残して灰かき棒やスコップで掻き出して、バケツに入れ、火の気がないことを確認の上、ゴミ捨て場などに捨てて下さい。
2. ストーブ、煙突の周りに可燃物がないことを確認し、着火してください。
3. **消火は,中の薪が燃え尽きるのを待つしかありません。水をかけたり、吸気口を閉じたりするのも厳禁です。**小屋退出の2時間程前から、薪の投入を控え、火勢を弱めて、扉をしっかり閉めて下さい。退出時に薪が燃え尽きたことをストーブの窓越しに確認してください。退出時に火が残っていても周囲に可燃物がなければ火事の心配はありません。燃えカスを無理に掻き出して捨てるのは却って危険です。

５．高温にせず適切に利用している限り、火をつけたまま就寝・外出しても構いません。

**[退出時のお願い]**

1. 食糧、飲み物などの残り物、ゴミなどは全て持ち帰り、整理・整頓お願いします。
2. 備え付けの小屋日誌に利用者全員の氏名を記入し、コメントもお願いします。
3. 宿泊の場合、利用終了を学園に連絡し、小屋の様子などを知らせて下さい。

**[最新情報]　栄光学園同窓会HP⇒事務局通信⇒会員サービスメニューで、確認下さい。**

**追記**：1957年に建てられた栄光山小屋。建設に尽力された故ハンス・シュトルテ神父や、作業に当たった教職員、生徒（6期～9期）に思いを致し、大切に使って頂けたら幸いです。

**薪ストーブ使用上の注意**

（「薪ストーブ虎の巻」（2024ランドマークストーブ）より抜粋）

【着火手順】

1. 前面にある3か所の給気口をすべて全開にする。火が燃えるには酸素が必要。

　①ガラス面下の一次給気用ダイヤルを回し隙間を開ける②下部の二次給気レバーを真下に下げて全開にする③ガラス上部のエアカーテン用レバーを左に動かし開ける。

1. 炉内の灰をならす

　前回使用した灰をスコップや灰かき棒でならし、余分な灰はかき出してバケツに入れる。

　灰があったほうが保温効果があり、炉床の保護になるので常に2センチ程度の灰を残す。

1. 前面のガラスが汚れていたら、クリーナーなどで拭いて中の炎が見えるようにする。
2. 薪をセットし、着火

　奥側に薪をくみ上げる。太い薪（２～３本）、中薪（２～３本）、焚き付け（大量）を下から太い、中、焚き付けの順番で井桁に組んでいく。焚き付けの上に着火剤をのせ、マッチなどで火をつけ、ドアを閉める。焚き付けを多くし、最初のうちは給気口を絞らずにして強い上昇気流で太い薪に火をつける。

**【消火】**

　薪ストーブを止めるには、炉中の薪を燃やし尽くす以外には方法はない。水をかけると鉄やガラスが急激な温度変化で破損する恐れがあり、給気口を全て閉じると、燻るだけでかえって危険。ストーブのドアが閉まっていて、周囲に可燃物がなければ火事の心配はないので無理な消化は絶対にしない。

★**注意点**

・薪ストーブに触れるときは、火傷防止のために革製グローブをはめる。奥行きがあるので、火ばさみを使う。

・着火した後は３か所の給気口は同時に全開にしない。

・上手に薪が燃えればガラスは汚れない。

・**ストーブの上部、周囲に衣類やぞうきんなどを干したり、可燃物を置いたりしない。**

・就寝時、外出時は空気を絞って火を弱める。起床したり、外出から戻った際は薪を足す。

・**小屋退出の２時間ほど前から薪の投入を控え、できるだけ燃やしつくすように努力する。**

・周囲の枯れ木、建築廃材も燃やせるが、防腐剤やペンキなどが塗られた廃材は避ける。

問合せ　ランドマークストーブ　0545-73-1125

[info@lmstove.jp](mailto:info@lmstove.jp)

　　　　　　　　　　　　以上